

1. 令和6年度認知症総合支援事業等の実績

		年度末実績			令和7年1月末現在			
		7期			8期			9期
年度		30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
認知症関連事業	認知症地域支援推進員設置数	4人 (兼務)	4人 (兼務)	3人 (兼務)	5人 (兼務)	6人 (専任1+兼務5)	7人 (専任1+兼務6)	7人 (専任1+兼務6)
	認知症カフェ	8	9	8	9	9	10	9
	認知症初期集中支援チーム 対応件数	1	1	1	1	1	3	4
	養成講座開催数	21	26	22	24	28	25	14
	養成講座受講者数	657	626	436	483	535	434	325
	養成講座初回受講者数	481	370	266	394	440	340	316
	養成講座受講者総数	7,289	7,915	8,351	8,834	9,369	9,803	10,128
	ステップアップ講座開催数				3	3	3	2
	ステップアップ講座修了者 総数				24	70	99	127
	チームオレンジ数					2	3	4
	キャラバンメイト数	116	121	106	103	110	110	107
	認知症声かけ訓練実施数	1	1	0	0	1	1	1
	みまもりサポーター登録 事業所数	31	39	39	39	39	39	39
	みまもりネットワーク事業 事前登録件数	40	31	25	29	34	25	25
	位置情報サービス利用助成金 交付件数	1	1	0	0	0	0	0
	認知症ケアパスの作成		第2版作成			第3版作成		
家族介護者交流事業開催数	4	4	1	3	2	2	2	
家族介護者交流事業参加者数	103	91	6	18	13	13	13	
権利擁護事業	市長申立て件数	12	3	4	5	2	1	3
	後見人等報酬助成件数	16	20	23	17	17	21	15
	虐待通報件数	5	5	3	5	7	0	3
	虐待認定件数（うち認知症関係）	3(2)	2(1)	2(2)	2(1)	4(1)	0	3(0)

認知症総合支援事業等の評価

目標①	認知症の人の早期発見と早期支援、本人のニーズ把握、医療・介護の連携による切れ目のない支援体制(認知症初期集中支援チーム)の強化
取組	認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チームを中心とした本人・家族支援
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・本庁・ステーション総合相談・訪問件数:延べ 1,823件 (うち、窓口対応件数:延べ 294件) ・在宅介護支援センター総合相談・訪問件数:延べ 1,111件 ・認知症の相談:282件(本庁・ステーション) <ul style="list-style-type: none"> うち認知症地域支援推進員による個別支援実人数 45名 高梁(8)、津川(1)、川面(1)、中井(3)、宇治(4)、巨瀬(6)、高倉(1)、落合(3)、有漢(7)、川上(11)、備中(1) ⇒必要に応じて支援機関へのつなぎ、サービスの導入支援を行った。 ・認知症初期集中支援チーム対応件数:4件 認知症初期集中支援チーム員連絡会議を3回開催し、認知症サポート医とチーム員の継続的な連携を図った。 ・本人ミーティングを2回開催した。認知症の人と家族の会にも協力していただき、手探りで始めた会だったが、参加者の皆さんに喜んでいただけた。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡会議を継続して開催していることにより、認知症サポート医との連携がよりスムーズになり、相談しやすい環境が作れていることで対応件数が増えた。 ・今年度、初めて本人ミーティングを開催した。認知症本人の訴えをしっかりと聴けたこと、また介護している家族の生の声を聴けたことは開催の意義があったと感じている。今後も意識して本人の声を聴いていく必要があり、また、その聴いた声やニーズをどう活かしていくのか検討が必要。

目標②	認知症の正しい知識の普及啓発
取組	9月の認知症月間を中心とした認知症理解啓発活動、認知症ケアパスの活用、認知症サポーター養成講座の積極的開催
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・9月認知症月間を中心とした認知症理解啓発活動を実施した。 ・幟の設置(市役所・各ステーション) ・パネル展示・まちかど相談会・街頭啓発活動 (ゆめタウン高梁・ポルカ天満屋ハッピータウン・高梁市図書館・成羽病院) (吉備国際大学でのパネル展示 10月1日～10月31日) (備北信用金庫主催:認知症予防セミナー 10月17日) ・行政放送番組放映「認知症月間特集」、「認知症カフェ」 ・認知症図書フェア(高梁市図書館・各図書室) ・マグネットステッカー、啓発ポスターの掲示、リーフレット配布 ・一般向け認知症サポーター養成講座の開催 参加者:12名 ・オレンジガーデニングプロジェクトの実施 ・本人向け認知症ケアパスをパネル展示の際に展示・配布を行い普及啓発を行った。認知症に関する講座での紹介や市内医療・介護事業所等だけでなく、金融機関や自動車学校にも協力いただき普及啓発を行った。 ・認知症サポーター養成講座:14回、新規受講者316名

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症月間を中心に認知症理解啓発活動を行い、認知症について知ってもらう機会を作ることができた。今後も継続した取り組みが必要である。 ・認知症サポーター養成講座未実施の小中学校でのキッズサポーター育成や企業サポーターの育成に引き続き力を入れ、個別に開催依頼を行うなど、地域で見守りが行えるよう認知症理解啓発に力を入れていく必要がある。
目標③	認知症サポーターを中心とした本人・家族のニーズと支援をつなぐチームオレンジの活動支援
取組	地域におけるチームオレンジの立ち上げ支援と活動支援
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市内4か所目のチームオレンジ「チームオレンジ畦地有志」が結成された。 ・認知症サポーターステップアップ講座を2か所で開催した(畦地サロン・ステップアップ講座希望者)。ステップアップ講座修了者:26名、うちオレンジサポーターの登録:9名 ・オレンジサポーター、チームオレンジ(備中・川上、有漢)のフォローアップとして研修交流会を実施した。各代表からは「救急法や応急処置の勉強ができてよかった」「他のチームでの活動を知ることによって認知症本人や家族への支援を改めて考えるよい機会になった」との意見があった。
評価	市内4か所目のチームオレンジが立ち上がり、各地でチームオレンジの基盤づくりが出来つつある。オレンジサポーター、チームオレンジのフォローアップとして研修交流会を実施した。今後もオレンジサポーターの育成と活躍の場の確保や研修交流会を継続していく必要がある。
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> ・初期のころから相談ができる体制づくりと早期支援、本人のニーズ把握 ・本人ミーティングの開催により本人の声の把握 ・9月の認知症月間を中心とした認知症理解啓発活動の継続 ・認知症サポーターステップアップ講座の開催によるオレンジサポーターの育成と各地でのチームオレンジの設置 ・オレンジサポーター、チームオレンジの定期的な研修交流会の開催

令和6年度認知症関連施策事業の実績

事業名	認知症サポーター養成事業
事業内容	・認知症キャラバン・メイトによる認知症サポーター養成講座の開催およびキャラバン・メイト活動の拡大
目標	・認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して温かい目で見守る認知症サポーターを増やし、認知症の人と家族への支援の輪を広げる。
実績	・認知症サポーター養成講座 実績14回 【R5:25回】
	サポーター養成講座受講者数 実績325人（うち初回受講者：316人） 【R5:434人（うち初回受講者：340人）】 小学生 55人 中学生 12人 高校生 70人 大学生 97人 団体・企業 49人 地域 42人
評価	例年養成講座を開催している地域・ボランティア・学生に加えて企業や金融機関にも声かけを行い、商業施設内のスタッフに対して実施した。また、金融機関への声掛けにより一般市民対象の養成講座に金融機関職員が参加していた。

事業名	認知症サポーター活動推進・地域づくり推進事業
事業内容	地域における認知症高齢者とその家族への相談・支援の実施と、認知症の人への支援体制を構築し関係者間の連携強化を行う。
実績	・認知症サポーターステップアップ講座を2か所で開催（有漢町畦地サロン・認知症サポーター希望者） ・オレンジサポーターの登録 新規9名 ・新規で「チームオレンジ畦地有志」が結成された。 ・オレンジサポーター、チームオレンジ（備中・川上、有漢）のフォローアップとして研修交流会を実施した。内容は消防署による「救急法、応急処置について」と意見交換（困りごと等）を実施した。
評価	新たに1か所でチームオレンジが立ち上がった。またチームオレンジのフォローアップとして研修交流会を実施した。今後も認知症の人や家族が地域での生活が継続できるように各地でのチームオレンジの立ち上げ及び活動支援が必要。

事業名	認知症高齢者見守り事業			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・みまもりネットワークの体制整備と高齢者位置情報サービスを利用する際の初期導入費の助成を行う。 <p>[みまもりネットワーク]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症等により徘徊等で行方不明となる心配のある高齢者の家族に、事前登録をしてもらい、日常の見守りと行方不明時の連絡体制、警察や消防等との情報共有を行い、早期発見へ繋げる <p>[みまもりサポーター（大切なあなたを見守り隊）]</p> <p>みまもりメールに登録した団体及び企業</p> <p>[高齢者位置情報サービス費助成]</p> <p>高齢者位置情報サービスを利用する際の初期導入費の助成 助成額：10,000円（初期導入費用のみ、維持費は本人負担）</p> <p>※行方不明件数（市把握分）</p>			
		R 4	R 5	R 6
	行方不明事案	4件	1件	2件
	みまもりネットワーク活用	0件	0件	0件
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・みまもりネットワーク登録者 25件【R5：25件】 ・みまもりサポーターの登録 39件【R5：39団体】 ・位置情報サービス初期導入費助成 0件【R5：0件】 			
評価	<p>新規に3名がみまもりネットワークに登録し、関係機関と情報共有・見守りを行った。みまもりサポーターの活用ができていないため、あり方について検討が必要である。位置情報サービスの初期導入費の助成については、対象者と対象機器の拡大を行っているが、利用には繋がっていない。</p>			

事業名	認知症初期集中支援推進事業			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援チームを設置し、認知症の診断を受けていない方や、介護サービスの利用に結びついていない方等で、認知症と思われる対象者を医療や介護へ繋ぎ、自立した生活を支援する。 ・認知症初期集中支援チーム員 サポート医 3名 保健師 2名（うち1名、令和6年度研修受講） 社会福祉士 3名（うち1名、令和6年度研修受講） 介護福祉士 1名 計 6名 ・チーム数：1 			
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新規初期集中支援チーム員の養成 2名 ・初期集中支援チーム員会議の定例開催 5月、8月、1月 事例検討、情報交換を行い、連携を深めた。 ・初期集中支援チーム稼働：4件 (訪問 延べ14回、チーム員会議 延べ8回) 			
評価	<p>今年度の事例は、ケアマネからの相談2件、家族からの相談2件であった。いずれも、本人の医療機関受診拒否やサービス利用拒否があり、困っている状況であったが、関係機関や本人、家族との話し合いを重ねることで、それぞれの役割を明らかにし、課題解決に向かうことができた。</p>			

事業名	認知症ケア向上推進事業						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型施設を始め、認知症対応可能な専門職やキャラバン・メイトがいる事業所、ボランティア団体等により認知症の人とその家族、地域の人が集う場（認知症カフェ）を運営する。 ・地域における認知症高齢者とその家族への相談・支援の実施と、認知症の人への支援体制を構築し関係者間の連携強化を行う。 ・認知症地域支援推進員（地域包括支援センター内7名）を配置（専任1名（保健師）、兼務6名）し、認知症の人やその家族への支援を行う。 						
実績	【認知症カフェ】 継続9、新規0 計9カ所 延88回 利用者：1025人（認知症114人[R5：126人]、家族42人、一般869人、相談12件）						
		認知症の方	新規認知症	家族	新規家族	地域の方	相談件数
	1 カフェすずらん	33	7	8	3	71	1
	2 マスカットカフェ	0	0	0	0	119	0
	3 カフェ福ちゃん	0	0	0	0	43	0
	4 ふらっとカフェオレンジ	0	0	0	0	37	0
	5 なりわ茶屋	33	4	27	6	109	4
	6 なりわ茶屋in川北	8	2	0	0	73	0
	7 かわかみ茶坊	35	5	7	2	264	1
	8 カフェキク	4	4	0	0	50	0
9 サニー健幸ラウンジ	1	1	0	0	103	6	
計	114	23	42	11	869	12	
【認知症地域支援推進員】 <ul style="list-style-type: none"> ・新規に2名が認知症地域支援推進員研修を受講し、1名が現任者研修を受講した。 ・認知症の人、家族への個別支援➡ 45名 高梁（8）津川（1）川面（1）中井（3）宇治（4）巨瀬（6） 高倉（1）落合（3）有漢（7）川上（11）備中（1） ・本人ミーティングの開催 第1回 日時：6月19日（水）13：30～15：00 参加者：本人 4名、家族 3名、支援者 3名 第2回 日時：12月4日（水）13：30～15：30 参加者：本人 6名、家族 4名、支援者 5名 【普及啓発活動】 <ul style="list-style-type: none"> ・9月の認知症月間を中心とした認知症理解普及啓発活動を開催 （幟の設置、パネル展示、街頭啓発、まちかど相談会の実施、行政放送番組の作成・放送、認知症を知るフェアの開催、マグネットステッカー、啓発ポスターの掲示、オレンジガーデニングプロジェクトの実施、一般向け認知症サポーター養成講座の開催） ・吉備国際大学でのパネル展示、備北信用金庫主催認知症予防セミナーでのパネル展示の実施 ・本人向け認知症ケアパスの展示・配布、市内医療・介護等事業所の他、市内金融機関、自動車学校に配付し、普及啓発を行った。 							
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービスを利用しない認知症の人やその家族が安心して通える認知症カフェが必要。 ・今年度、初めて本人ミーティングを開催。今後も意識して本人の声を聴いていく必要があり、また、その聴いた声やニーズをどう活かしていくか検討が必要。 ・9月の認知症月間に合わせて認知症理解推進の取り組みを行った。今後も理解推進のためにこの取り組みは今後も継続が必要である。 						

事業名	家族介護者交流事業（元気回復事業）
事業内容	・要介護者または介護者が市内在住で要介護者（40歳以上）を在宅で介護している家族介護者を対象に介護支援や介護に関する知識を習得などを行う
実績	第1回 日時：令和6年7月9日（火）10：30～13：30 内容：フラワーアレンジメント、講話「お口のケアと肺炎予防」、参加者交流会、会食 参加者：4人 第2回 日時：令和6年11月27日（火）10：00～14：00 内容：施設見学（介護老人福祉施設 光憂館）、参加者交流会、会食 参加者：9人
評価	・参加者は少数であったが、口腔ケアと肺炎予防の講話は「大変ためになった」との感想があり、フラワーアレンジメント等普段できないことを行い、「心が癒された」「有意義な時間を持つことができた」などの意見があった。 ・施設見学では熱心に質問する様子等もあり「勉強になった」といった意見や初参加の方もおられ「みんなと話ができて楽しかった」などの意見があった。 ・家族介護者支援のため、引き続きリフレッシュや在宅介護支援ができるよう開催していく。

事業名	成年後見制度利用支援事業
事業内容	・要支援者の判断能力の低下による金銭管理の不安を軽減するため、成年後見制度の申立てにかかる諸費用、成年後見人等の報酬の全部または一部を支給し利用を支援する。
実績	・市長申立人数 4名【R5：1名】 ・報酬助成決定者延べ件数 18件【R5：21件】
評価	・高梁市権利擁護センター（高梁市社会福祉協議会へ委託）と連携を図り、成年後見制度の利用促進を行った。

事業名	権利擁護事業
事業内容	・高齢者に対する虐待への早期発見・対応、生活上の困難事例の対応など権利擁護等アドバイザー（弁護士、司法書士、社会福祉士）の助言、指導により問題解決を図る。 【委託先：岡山県弁護士会、岡山県司法書士会、岡山県社会福祉士会】 ・被虐待高齢者の避難先の確保を円滑に行い権利擁護の促進を図る。
実績	高齢者虐待通報件数 3件【R5 0件】 権利擁護・虐待相談延数 83件【R5 88件】
評価	・民生委員・主任児童委員に向けて虐待防止や早期発見・対応の周知を行った。 ・虐待防止定例会議の開催により、権利擁護等アドバイザーから定期的に専門的助言を受けることにより、虐待防止体制の強化を図った。 ・高齢者虐待防止のための指針の策定

認知症施策検討委員会での協議

第1回 令和6年7月8日(金) 13:30～15:30

《議題》(1)令和6年度認知症総合支援事業及び重点目標について

(2)本人支援について

(3)グループワーク

①本人ミーティングの会の名称について

- ・オレンジ／マリーゴールド ミーティング、ひまわりミーティング等花をテーマにする
- ・「想う」「語ろう」の言葉を入れるのはどうか
- ・ロバ隊長と共に、ワイワイ、ぼかぼかサロン、みかんの会、スマイルミーティング
- ・本人の声「周りを元気にしたい」意見から、いきいきミーティング

②本人ミーティングを継続していくために

- ・内容を変えながら定期的を開催する(本人のみ、支援者のみ、専門職のみで行う、医師が来る等)
- ・本人の満足度を大切にする
- ・人と人のつながりを持たせる、話しやすい雰囲気作りをする
- ・囲んで話す、少人数に分けて話す等様々な話し合いのパターンで全員が話せるよう工夫する

③街頭啓発物品(うちわ)に載せる内容について

- ・今年度作成している横断幕と絵を合わせる
- ・ホームページや動画につながるQRコードを載せる
- ・外で持ち歩きしやすいようなデザインにする

第2回 令和6年11月25日(月) 13:30～15:30

《議題》(1)令和6年度の認知症総合支援事業の進捗状況について

グループワーク「認知症理解啓発活動についての評価と来年度に向けて」

- ・街頭啓発の時間の分散や配布物の検討(持ち運びやすさ)、待ち時間が発生する場所での実施を検討する必要がある
- ・成羽病院では待ち時間に違和感なく物忘れチェックができた
- ・人がいると入りにくい人もいたかもしれないため、人がいない時間も必要ではないか
- ・来場者の評価のため、チラシやリーフレットの枚数の管理をする
- ・チラシの一部を投票用紙にして、投票してもらう
- ・展示について医療機関は人が多く待ち時間も発生するのでいいのではないか。
- ・高梁中央病院に声掛けするのはどうか。

(2)本人の声について

グループワーク「自分が認知症になったとき、どのようなまちであつたらいいか」

- ・認知症になったらお金がもらえる、乗り物券など得がある、得意分野・強みを活かせる。
- ・行政からお知らせで認知症チェックがある(80歳になったら全員に通知など)
- ・仕事ができ、自分でお金を稼ぐことができる
- ・恥ずかしくない、隠さなくていい雰囲気づくり、認知症に対する暗いイメージを払拭したい
- ・安価で入所できる施設がある

第3回 令和7年2月13日(木) 13:30～

《議題》(1)令和6年度の事業実績及び評価について

(2)グループワーク「ヘルプカードについて」

ヘルプカードについて

ヘルプカードとは

- 連絡先や必要な支援内容などを記載し、困ったときに支援や理解を求めるためのもの
- ヘルプマークは、分かりやすく目立つのが特徴だが、マークをつけ続けることに抵抗を感じる人も...
- ヘルプマークの代わりに所持することも有効



希望をかなえるヘルプカード



自分が行きたいところに安心して出かけ、やりたいことをスムーズにできるために、認知症本人が使うカード

周りの人にちょっと手助けして欲しいことや、連絡先などを自由に書いておける

本人ミーティングで本人・家族から..

- まだ家に帰る道は忘れてないけど、これを忘れてたら困るなあ
- 計算ができません、歩くのが少し遅いです。皆さんに迷惑かけています。
- 一人でバタバタしています。周りが大丈夫と助けてくれます。
- 回覧板が理解できないことがあります。
- 近所に迷惑を掛けるようになって、町内に言ったら気持ちが楽になった。本人も気にせず話ができるようになった。大勢の人に知ってもらえていたらいい。

ヘルプカードの作成に向けて...

カードに載せる内容は？

カードの大きさは？

形は？

素材は？

次回以降の本人ミーティングで認知症本人と相談して形にしていきたい

